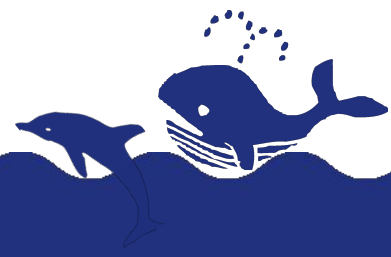


海と日本PROJECT in 兵庫県

一般社団法人海と日本プロジェクトinひょうご



汎用モデルが発展！淡路島を中心に瀬戸内海ごみゼロへ！

陸域からのごみが大半をしめると言われている瀬戸内海（淡路島）において、モデル事業を発展させることで、県民の海ごみ問題への認知向上・意識向上を図りました。「護海袋プロジェクト」は南あわじ市での販売が始まり全島事業へ、「できるだけ紙対応」は認定店が120店舗を越え、「さんぽdeごみ拾い」は全島での実施とともにホットスポット調査を実施。

地元団体・学校・イベント連携においても、新しい連携パートナーの発掘に成功し、活動の拡がりを感じています。清掃活動による直接的な海ごみ削減に加え、啓発活動を通して新たなごみを出さない意識を高めました。

2023年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI

護海袋プロジェクト

淡路島全島事業に発展



概要 レジ袋兼地域指定ごみ袋「護海袋」を制作・販売。タコのマークを象徴に活動展開

目的 プラスチック袋総使用量の削減。消費者含め地域内での海ごみ問題啓発

アピールポイント 2023年4月より南あわじ市での販売が開始。淡路島全島事業へと発展

効果 指標とした数字：
護海袋販売枚数・販売店舗数
見られた成果：
76,600枚・47店舗

さんぽdeごみ拾い

淡路島全島事業に発展



概要 良い行いとされながら、ごみ拾いを自発的に行う人は少ない

目的 仕組みを整え、気軽に且つ自発的に行う人を増やす

アピールポイント 汎用モデルとして、淡路島全島事業へと展開。参加者からの情報でごみのホットスポット調査を実施。さらに行政・学校と連携したシズンサイエンスにも活用。

効果 指標とした数字：
自発的な参加人数
見られた成果：
4,438人

できるだけ紙対応



概要 コロナの影響で飲食店のプラスチック容器の消費が増加

目的 飲食店から出るプラスチック容器の消費を削減。ネットワークを活用した啓発

アピールポイント 120店舗を越えたできるだけ紙対応店ネットワークを活用した啓発活動を実施。企業版として「forBIZ」も始動。淡路島外への拡がりも期待できる。

効果 指標とした数字：
認定店舗数
見られた成果：
120店舗

うみぞら映画祭



概要 淡路島の海ごみ問題深刻化に伴い、行政が海でのレジャー禁止を進め、海離れが進行

目的 海を好きになってもらうことで、自発的に海を守る活動を行う人を増やす

アピールポイント キレイな海の映像と共にブルー花火打上げや馬とのビーチクリーンなど楽しい経験と共に海ごみ問題啓発を実施

効果 指標とした数字：
参加人数
見られた成果：
5,000人

海ごみゼロウィーク



ごみ拾い参加人数 19,696人

箇所数 29箇所

アピールポイント 県内中規模イベント・地域団体・学校などと連携して、海ごみゼロウィークを中心に清掃活動を実施。直接的な海ごみ削減、参加者への啓発に寄与しています。

メディア露出



メディア露出本数 テレビ13本、他媒体3回

アピールポイント 活動のムーブメントを全県に拡げていくため、地域のテレビ局・サンテレビを中心に発信。参加者・協力店舗などの生の声を活かすことを意識しました。



2023年度の課題とこれからの展望

瀬戸内海エリアでの活動は淡路島を中心に拡がってきており、特に「護海袋プロジェクト」「できるだけ紙対応」「さんぽdeごみ拾い」の3事業は地域の取り組みとして定着しつつあると感じている。その反面、兵庫県は日本海にも面しているにもかかわらず活動範囲が瀬戸内海でとどまっていることに課題を感じる。来年度は行政・地元企業・団体を巻き込んだNEチームの活動として日本海エリアへの展開に挑戦し、全県的な活動へとステップアップしたいと考えている。